

科学と社会委員会 メディア懇談分科会（第24期第8回）
議事要旨

1. 日 時 令和2年1月23日（木）13:00～14:30
2. 会 場 日本学術会議 6階 6-C（1）会議室
3. 出席者 渡辺委員長、土生副委員長、山極委員、赤阪委員

4. 議 題 (1) これまでの状況把握
(2) 今後の予定
(3) その他

5. 配布資料

- 資料1 科学と社会委員会メディア懇談分科会委員名簿
- 資料2 メディア懇談分科会これまでの議論
- 資料3 新聞記事数（令和2年1月17日現在）
- 資料4 前回議事要旨

6. 議事

(1) これまでの状況把握

- ・ 冒頭、渡辺委員長より、配布資料の説明があり、資料2のメディア懇談分科会のこれまでの議論の論点について説明があった。
また、赤阪委員より、フォーリンプレスセンターでのブリーフィング一覧が配布され、一部の内容についての説明とともに、ブリーファーは大学教授が非常に多いとの紹介があった。
- ・ 報道においても、解説がないと理解できないニュースが増えている。ただサイエンスは解説者が足りない。地球温暖化など、人々の生活に直結している問題も多い。もっとサイエンス系の解説者を充実させなければいけない。
- ・ SNSやインターネットの普及によりメディア増え、人々がメディアやニュースを選択するようになった。これまでの新聞やテレビなどのメディアの長い解説などは見なくなっていて、Twitterなどがニュース源になっている。
重要なニュースへ関心をもたせるような誘導が必要、信頼できる情報に誘導する方法を考えないといけない。科学ジャーナルが廃れてしまったので、一般の人が、信頼できる情報を解説付きで読める機会が少なくなっている。

- 日本学術会議においても、科学者がある程度、解説できるような機会が必要。解説が上手い人を見せていくのはどうか。
- そういった解説にもロールモデルが必要ではないか。
- 科学の解説にしても、バックグラウンドの話は退屈だが、それに関連するホットな話題があれば、一般の人でも見たいと思う人は多いと思う。
- 野村総研の調査によれば、日本人は満足度は高いが幸福度は低いという結果である。収入、利便性、情報などとの関係を調べることも必要ではないか。

(2) 今後の予定

- 渡辺委員長より、科学とメディアの関わりについてシンポジウムを開催することについて提案があり、委員は賛同した。
- シンポジウムのテーマについて
「技術先行社会で人と科学の調和を図るためにメディアは何ができるか」が一案である。
- 登壇者については、以下の意見があった。

○海外のメディア関係者（アメリカやイギリスのジャーナリストで日本語が流暢な方が望ましいのではないか）

○大使館関係者（メディア事情や SNS に精通した方が望ましい）

○若者（現代の若者は Youtube が信用できる情報源だという。そういった方たちの声も聴きたい）

○テレビ関係者

（解説委員でサイエンスをやられている方がいいのではないか）

○日本学術会議からは、情報学、外国人アドバイザーなどはどうか。

○政府の広報担当者